

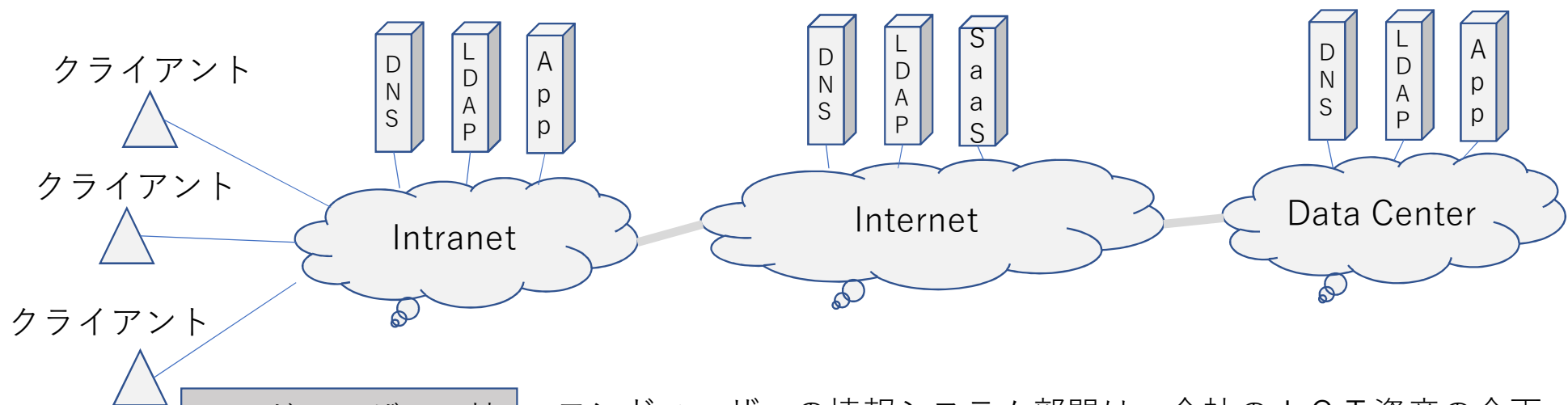


Ennetix Inc. xVISOR
Pain- Solution - Benefits
(問題点-解決手段-利点)
検討

2019年10月6日

坂本明男

言葉の定義



エンドユーザーの情報システム部門

エンドユーザーの情報システム部門は、会社のICT資産の企画・導入・運用・管理の責任を持つ

ICT運用部門
(エンドユーザーもしくは外部)

ICTを業務とする会社は自社でICT運用部門を持つ。その他の会社はICT運用専門会社に委託しているケースが多い。ここでは両者を運用部門と呼ぶ。

システムインテグレータ

システムインテグレータ (SI) はエンド・ユーザーの情報システム部門にイントラネットやクライアント機器、サーバー、アプリ・ソフトウェアの一部もしくは全体の提案・開発・導入を実施する。ICT運用も請負い、外注もしくは自社の運用部門に任せることが多い。

システム・インテグレータ (SI)

- SIは会社の売上と利益に貢献するために（=自分の報酬）常に新規物件の発掘を行い、他社よりも顧客にとって価値の高い提案・開発・導入・実施できる方法を探りだしていく必要がある。
- Pain（問題点）
 - SIは従来のツールではICTシステムの各コンポーネントの動的性能や動的トラフィックを把握できていない。特にある瞬間にすべてのサーバーや全てのルーターがどのようなトラフィックを、どのような性能で処理したかの把握が出来ていない。動的実態が把握できないので問題点も見えなく、顧客にとって価値の高い新規提案も出来ない状況にもある。どのシステムにも動的問題はあり、そこはSIにとって宝の山かも知れない。
- Solution（解決手段）
 - xVISORをある期間、ランすることで、上記の問題点の情報は把握できる。瞬間の全体状況も見れるし、ある期間の統計データも見れるので、顧客に快適な性能と最適なシステムの提案が作れる。
- Benefits（利点）
 - SIはエンド・ユーザーの情報システム部門に最適なキャパシティ・プランニングや他社に勝てる提案が作れる。
 - 自社の売上・利益を上げることに貢献できる。
 - ICTシステムの静的・動的状況を定期的に顧客に提出できるので顧客QoS(Quality of Service)を上げることが出来る。

ICT 運用部門 (OT)

- 運用部門はクライアントに快適で性能良い、システム・ダウンなどが無いICTシステムを、提供することが最重要である。
- Pain (問題点)
 - 運用部門はサーバーやネットワーク機器のシステムダウンには自動回復手段やスピーディーに回復できる手段を持っている。しかしながら、各クライアントがサーバーを性能良く、快適に使えているかどうかは把握できていない。
- Solution (解決手段)
 - xVISORをある期間ランすることで、全クライアントのサーバー・アクセス性能を検出できるので、適切な性能を確保できていないクライアントが分かり、対処ができる。
 - また、xVISORは常時クライアントのサーバーアクセス性能を監視し、AI/MLを活用した分析テクノロジーを使用して、パフォーマンスの逸脱をインテリジェントに推論し根本原因をリアルタイムで相関させることができます。そのため、OTはスピーディーに対処することが出来る。
- Benefits (利点)
 - OTはICTシステムの各コンポーネントの性能をxVISORで見える化できるので、性能に関する予知・予防保全が出来る。
 - OTは想定外のクライアントのサーバー・アクセスや異常トラフィックをxVISORの情報から発見できる可能性がある。
 - OTはxVISORからの情報を基に定期的にICT全体の静的・動的なレポートを作ることが出来る。それをエンドユーザーの情報システムのトップに提出することが出来るので、OTのQoS (quality of service)の価値向上が出来る。

エンドユーザーの情報システム部門 (EU)

- 情報システム部門はクライアントに快適かつ性能・信頼性・信用性の高いICTシステムを提供すること。更には会社のトップに対してガバナンスの高いICTシステムを企画・開発・運用すること。
- Pain (問題点)
 - 運用部門からの報告で情報システム部門はサーバーやネットワーク機器のシステムダウンには自動回復手段やスピーディーに回復できる手段を持っている。しかしながら、各クライアントがサーバーを性能良く、快適に使えているかどうかは把握できていない。
 - 情報システム部門はガバナンスに従ってICTシステムが運用・管理・実働しているかをチェックする自動化ツールを持っていない。
- Solution (解決手段)
 - xVISORをある期間ランすることで、全クライアントのサーバー・アクセス性能を検出できる。適切な性能を確保できていないクライアントが分かり、対処ができる。
 - xVISORはICTシステムのビデオカメラのような仕掛けである。ICTシステムの動的な実働を捉え、記録している。例えば、設定漏れなどで逃している想定外のアクセスなども発見できるかもしれない。
- Benefits (利点)
 - EUはICTシステムの各コンポーネントの性能を xVISORで見える化できるので、性能に関する予知・予防保全ができる。
 - EUは想定外のクライアントのサーバー・アクセスや異常トラフィックを xVISORの情報から発見できる可能性がある。
 - EUは xVISORからの情報を基に定期的にICT全体の静的・動的なレポートを作ることが出来る。それをCIOなどのトップにも提出することが出来る。これによりICTシステムのガバナンス向上に貢献できる。

エンドユーザーのエグゼクティブ (EE)

- EE、エグゼクティブはICTシステムが高いガバナンスに従って運用・管理・実働していると全てのステークホルダーに宣言できることが要求される。
- Pain (問題点)
 - エグゼクティブはガバナンスに従ってICTシステムが運用・管理・実働しているかをチェックする自動化ツールを持っていない。したがって、CIOや情報システム部門からの言葉を信用する以外の手段がない。
 - エグゼクティブは内外のステークホルダーからSEや運用部門の技術者の質が落ちていると評価されている。しかしながら、現在の高度かつ複雑、日進月歩の技術を習得した技術者を揃えることは不可能に近い。
- Solution (解決手段)
 - xVISORはICTシステムのビデオカメラのような仕掛けであり、ICTシステムの動的な実働を捉え、記録している。例えば、設定漏れなどで逃している想定外のアクセスなども発見できるかもしれない。
 - 現在の日進月歩のICT世界ではAI/ML技術を使うことで、技術者の質を上げることが出来る。xVISORはAI/MLツールの一つである。
- Benefits (利点)
 - エグゼクティブはICTシステムの実働状況を取締役会、監査委員会、証券取引所などの定期レポートに組み入れることが出来、コンプライアンスの向上と会社信用に貢献できる。
 - AI/MLソフトウェアの導入で技術者の質を向上できる。